

あ 青木村議会だより

Vol. 91

令和5年11月1日発行

CONTENTS

- 令和5年 第3回 定例会 … 2～4
- 常任委員会報告 … 5～6
- 一般質問 … 7～13
- 本会議討論 … 14
- 議会の動き … 15～17
- 議会日誌・住民の声 … 18

「頑張って」 もうすぐゴール!!



gikai@vill.aoki.nagano.jp



<http://www.vill.aoki.nagano.jp/gikai03.html>



令和5年

第3回定例会

令和5年第3回定例会は、去る9月5日に招集され、20日までの会期で行われました。慎重審議の結果、報告2件、令和4年度の決算の認定7件、条例改正2件、人事案件1件、令和5年度補正予算1件、陳情1件は原案のとおり承認、可決、採択されました。

一般質問では7人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ (要旨)

今年も非常に暑い夏でした。気象庁が発表した長期予報によると、9月から11月にかけての3か月間も、地球温暖化やエルニーニョ現象などの影響で、広い範囲で気温が平年より高い傾向が予想されています。特に9月は、東日本や西日本を中心に残暑が長引く見通しです。また、記録的な猛暑に加えて、雨が少ない状況が続いており、農作物への影響が大変心配な状況です。今週は雨の降りやすい日が多いようですので、少し期待したいと思います。

78回目の終戦記念日を迎えた8月15日、「全国戦没者追悼式」

が日本武道館で開かれ、天皇皇后陛下や岸田文雄首相、戦没者遺族らが参列し、戦争で犠牲になった約310万人を追悼しました。岸田首相は、ロシアによるウクライナ侵攻が1年半にわたるなど緊迫する国際情勢を巡って「戦争の惨禍を二度と繰り返さない。この決然たる誓いを今後も貫いていく」とし、国際社会と協力していく姿勢を示しました。私は、戦前に生まれ戦争の悲惨さを少しでも知っている者として、若い人たちにそれを伝えていく責務があると思っています。

今年、大正12年（1923

年）、南関東を中心に発生した関東大震災から100年目を迎えます。牛伏寺断層は松本市と塩尻市を通る活断層で、将来活動確率（今後30年以内）は約25%と、国内の内陸部では最も高く予測されています。隣接する青木村でも、台風などと違い予測できない地震等にも、しっかりと最悪の事態も想定し、その対策や対応に備えていかなければならないと考えております。

上田圏域のコロナ感染状況は5類に変更以降、しばらく急激な感染拡大傾向は見られず、比較的安定した状況が続いており

ましたが、7月以降徐々に感染者数が増加し、県は8月29日全県に「医療警報」を發出しました。村では、5月以降実施してきました65歳以上の高齢者の方等を対象としたワクチンの春・夏接種に引き続き、9月下旬からは、初回接種を終了した方を対象に、現在流行の主流となっているオミクロン株「XBB」対応ワクチンを使用した秋・冬接種を開始し、体育館での集団接種を予定しています。

9月1日、株式会社竹内製作所青木工場が操業を開始致しました。村にとってこの工場は、産業拡大、地域経済の底上げ、雇用や税収の増につながり、ひいては移住・関係・交流人口の増による村の活性化を実現させる世紀のプロジェクトです。操業開始にあたり竹内製作所様から、村が行った工場敷地造成や周辺道路整備等の協力、そして予定通りの期日に操業開始できたことに対するお礼として、2億円の寄附のお申し出を戴きました。大変ありがたいことであります。

東急グループが殿戸の五島慶太翁生家跡地に、焼け残った古材を活かし生家そのままの姿で復元した建物「東急グループ慶太塾」の竣工式が、8月2日に

行われました。この塾の意図するところは、『東急グループ各企業の役員が当塾に集い、時代をこえて若かりし慶太と同じ空気を吸い同じ景色を見ながら語り合い、その創業者精神を自らの心に宿す、まさに東急グループの拠り所そのものである。』と設立趣意書に謳われています。

今年4年ぶりの夏まつりを交通安全等を考慮し総合グラウンドのみで実施しました。また、悪疫退散と祖先への鎮魂を祈願し花火大会も行い、家族や友人の多くの皆さんに感動していただけたと思います。来年は、世の中が平和で、経済が回復する中での開催を期待したいと思います。



タチアカネそば 花・実まつり

報告事項

報告第1号
健全化判断比率

すべての地方公共団体は「地方公共団体の健全化に関する法律」に基づき毎年度の決算により健全化判断比率を監査委員の審査に付した上で議会に報告し、公表しなければならぬとされています。

青木村は、それぞれの指標で早期健全化基準を下回っており、村財政の健全化は保たれていると判断します。

(単位：%)

<指標の名称>	青木村の比率	国が定める 早期健全化基準
実 質 赤 字 比 率	—	15.0
連 結 実 質 赤 字 比 率	—	20.0
実 質 公 債 費 比 率	7.5	25.0
将 来 負 担 比 率	—	350.0

実質赤字額、連結実質赤字額、将来負担額がないため、「—」で表示しています。

報告第2号
資金不足比率

公営企業を経営する地方公共団体は、毎年度、公営企業会計ごとに資金不足比率を、監査委員の審査に付した上で、議会に報告し、公表しなければならぬとされています。

青木村における公営企業会計はいずれも資金不足を生じていません。

(単位：%)

<公営企業特別会計>	青木村の比率	国が定める 経営健全化基準
簡易水道事業会計	—	20.0
特定環境保全公共 下水道事業会計	—	20.0

青木村の数値は資金不足額がないため、「—」で表示しています。

議 案

議案第1号～議案第7号

令和4年度青木村一般会計決算の認定について、青木村特定環境保全公共下水道会計決算の認定について

内藤代表監査委員より決算審査報告がありました。

議案第8号

青木村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例について

子ども家庭庁設置法等の施行に伴い、関係する条例の改正を行うものです。

議案第9号

青木村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

放課後児童支援員とみなす研修終了予定者に係る経過措置を規定するため、条例の一部を改正するものです。

議案第10号

教育委員会委員の任命について

任期満了を迎える教育委員会委員の任命について議会の同意を求めるもので、次

の方が再任命されました。
上原 利明氏（入田沢区）

議案第11号

令和5年度青木村一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ3億1922万6千円を追加し、33億1148万円とするもので、歳入では道路橋梁災害復旧費国庫負担金1860万円、保全松林健全化整備事業補助金2240万7千

円、(株)竹内製作所様からの寄付金2億円、前年度繰越金4863万6千円の増が主なもので、歳出では、公共施設整備基金積立金2億円、長野県価格高騰特別対策支援金300万円、保全松林健全化整備事業3201万円、村道青木の森1号線災害復旧工事3500万円の増などが主なものです。



6年ぶりに開催された村民体育祭



武蔵野美術大学生による絵画学習

陳情第1号
「健康保険証」の存続に関する
意見書の提出を求める陳情書に
ついて
健康保険証の廃止は行わ
ず、存続を求める意見書を
国に提出するよう求める陳
情です。

賛成討論

塩澤 敏樹議員
金井とも子議員

令和4年度 青木村 決算の状況

(単位：円)

	歳入	歳出	翌年度繰越*	収支
一 般 会 計	3,288,528,880	2,957,192,810	200,723,000	331,336,070
(特別会計)				
国 民 健 康 保 険	598,504,379	566,627,963		31,876,416
別 荘 事 業	20,814,040	20,814,040		0
介 護 保 険	548,440,739	544,254,154		4,186,585
後 期 高 齢 者 医 療	67,194,689	67,065,289		129,400
(公営企業会計)				
簡易水道事業	収益的支出	184,311,913	173,954,032	10,357,881
	資本的支出	131,009,000	185,504,617	△ 54,495,617
特定環境保全 公共下水道 事業	収益的支出	223,808,144	217,894,531	5,913,613
	資本的支出	184,235,000	193,214,445	△ 8,979,445

※翌年度繰越：事情により翌年度に繰り越した予算。

議案の議決結果

○賛成 ●反対

議 案	松本	塩澤	平林	宮入	坂井	松澤	金井	宮下	沓掛	居鶴	結果
議案第1号 令和4年度 青木村一般会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	認定(全員一致)
議案第2号 令和4年度 青木村国民健康保険特別会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	認定(全員一致)
議案第3号 令和4年度 青木村別荘事業特別会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	認定(全員一致)
議案第4号 令和4年度 青木村介護保険特別会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	認定(全員一致)
議案第5号 令和4年度 青木村後期高齢者医療特別会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	認定(全員一致)
議案第6号 令和4年度 青木村簡易水道事業会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	認定(全員一致)
議案第7号 令和4年度 青木村特定環境保全公共下水道事業会計決算の認定について	○	○	○	○	○	—	○	○	●	○	認定(賛成多数)
議案第8号 青木村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決(全員一致)
議案第9号 青木村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決(全員一致)
議案第10号 教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決(全員一致)
議案第11号 令和5年度 青木村一般会計補正予算について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	可決(全員一致)
陳情第1号 「健康保険証」の存続に関する意見書の提出を求める陳情書について	○	○	○	○	○	—	○	○	○	●	採択(賛成多数)

※議長は採決に加わりません。

常任委員会報告

総務建設産業委員会

委員長 宮入 隆通

令和5年第3回青木村議会定例会で、令和4年度決算の認定について総務建設産業委員会に付託された案件について委員会審議が9月11日に行われました。

審議内容は次の通りです。

議案第1号 令和4年度青木村一般会計決算の認定について

歳入については、固定資産税、法人住民税の今後の見込みと動向、相続登記義務化に向けての対応などに

ついて質疑並びに意見が出されました。

歳出においては、総務企画課・税務会計課関係では、財政諸表の数値、地域おこし協力隊の状況と今後の採用予定、千曲バス青木線の運行状況、村基金の運用状況について質疑が出されました。また、建設農林課・商工観光移住課関係では、有害鳥獣駆除の状況、成果と駆除実施者の確保、ラジコン草刈り機の有効活用策、多面的機能支払い交付金事業の返還金や事務委託に対する村

の考え方、畜産農家の現状、堆肥活用事業の活用状況や飼料高騰への対応、松くい虫被害拡大の要因や対策について、杳掛温泉の経営状況や支援への村の考え方、村営住宅の更新・長寿命化計画の内容、移住定住の状況、村単土木工事の内容や繰越事業の状況と精算の見込みなどについて多岐にわたり質疑がなされました。

反対討論はなく、賛成討論では、令和4年度は、青木村第6次長期振興計画のスタートの年度であり、新型コロナウイルス感染症の取り組みも3年目を迎え、先が予測できない状況であり、規律ある財政運営が求められる。地方創生臨時交付

金を活用してのコロナ対策、村の特産チアカネに対する補助金、柿ノ木水路の改修や村道の改良など、村が抱える課題に対して、適切に対応いただいたことは評価できる。今後も継続事業、新規事業とも地域の要望を取り入れる中で、事業展開を望むとの賛成討論があり、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

賛成討論

平林 幸一 議員

議案第3号 令和4年度青木村別荘事業特別会計決算の認定について

質疑・討論なく全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

議案第6号 令和4年度青木村簡易水道事業会計決算の認定について

公営企業会計移行に伴う特別損失の内容や、水道広域化、水道料金見直しに対する村の考え方などについての質疑があり、討論なく全

員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

議案第7号

令和4年度青木村特定環境保全公共下水道事業会計決算の認定について

質疑・討論なく全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。



防災ヘリコプターへの給水訓練

社会文教委員会

委員長 坂井 弘

令和5年第3回青木村議会定例会において、社会文教委員会に付託された5つの案件について、9月12日に委員会審査をいたしました。

審査結果は、次のとおりです。

議案第1号

令和4年度青木村一般会計決算の認定について

教育委員会関係について、保育料及び保育料還付金の内容、コロナ禍における登園自粛措置の実状、小中学校A・L・Tの効果と現在の英語力、小学校下水工事の現状と効果、社会教育委員の活動と公民館費における報償費・補助金の内容、埋蔵文化財の整備状況、図書館の購入図書選択の観点ならびに利用状況、体育館と村内施設のLED化工事の進捗状況について。また、住民福祉課関係について、戸

賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

賛成討論

塩澤 敏樹 議員

議案第2号

令和4年度青木村国民健康保険特別会計決算の認定について

県下における青木村の特定検診受診率の状況、国民健康保険事業費納付金の概要ならびに退職分の今後の動向、国保ヘルスアップ事業の内容について質疑応答がなされました。

討論なく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

議案第4号

令和4年度青木村介護保険特別会計決算の認定について

繰越金や基金積立金について、また、任意事業費の委託料における介護予防等事業の内容について質疑応答がなされました。

討論なく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

議案第5号

令和4年度青木村後期高齢者医療特別会計決算の認定について

質疑・討論ともなく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。

陳情第1号

「健康保険証」の存続に関する意見書の提出を求める陳情について

マイナンバーカードと健康保険証一体化のメリットや、信濃毎日新聞社の取材に「健康保険証廃止を延期すべきだ」と回答した村の考え、健康保険証廃止以降の資格確認書の取扱い、村保険者としての交付方法について質疑がなされました。

高齢者からはマイナンバーカードや暗証番号の管理ができないという声があり、医療施設ではオンライン資格確認システムの運用で不具合が起きたという報告がある。希望する人がマイナンバーカードを取得し、健康保険証として利用することは否定しないが、誰もが必要な医療が受けられる体制を堅持するために、シス

テムの総点検と健康保険証の存続を強く要望する。また、保険資格の確認等、業務の煩雑化が予想される。一体化するのであれば、マイナンバーカードの普及が十分になされた後にすべきなどの賛成意見が述べられ、反対意見はなく、賛成多数にて採択すべきものとすることに決定しました。

賛成討論

塩澤 敏樹 議員
金井とも子 議員

以上、社会文教委員会に付託されました案件についての審査結果の報告です。



保育園おやこ運動会

松くい虫によるアカマツの危機

居鶴 貞美 議員



- 1、水道広域化について
- 2、名誉村民について
- 3、松くい虫対策について



宮原栄吉氏の胸像



松くい虫による被害の撲滅を

1 水道広域化について

(問) ①水道広域化の考えは。

②村の広域化との関わりは。

建設農林課長答弁

①令和元年10月の改正水道法の施行により、人口減少に伴う水需要の減少、施設の老朽化、人材不足等の課題に対応して水道事業の広域連携が推進されており地域の実情や課題に応じた検討を進めている。

②長野市、上田市、千曲市、坂城町、県企業局の5団体で事業統合を含めた連携の検討がなされている。青木村は先行する5団体の事例からの情報提供により人材育成、事務連携などを検討していく。

(問) ③村の今後の水道事業に対する考えはどうか。

村長答弁

広域化は上田市の動きを注視し引き続き枠組みの中で検討を進めていく。水道供給施設、特に水道管路は耐震化と老朽化の布設替えを急いで実施していく。村民のニーズに対応した信頼性の高い水道を提案して、次世代に継承しながら安定供給に努めたい。

2 名誉村民について

(問) ①名誉村民4名に対する

顕彰の状況はどうか。

②宮原栄吉氏以外3名の胸像の建立についてどうか。

村長答弁

①名誉村民は宮原栄吉氏、小川原辰雄氏、宮原毅氏。6月議会の議決で五島慶太翁は9月15日に称号及び名誉村民章の贈呈式を予定している。4名の功績は後世に伝えていかなければならない。顕彰は条例の定めで実施している。

②宮原栄吉氏以外の名誉村民の胸像の建立は今のところ考えていない。村民や関係者からも今のところ話はない。宮原栄吉氏の胸像は村民の有志が実行委員会を設立して寄付により建立したと承知している。

(問) ③小・中学校での4名の顕彰活動はどうか。

教育長答弁

五島慶太翁は「五島慶太のひみつ」のパンフレットを令和3年に児童・生徒に村から配布している。他の3名については必ず扱うような計画にはなっていないが、昆虫資料館や地域学習の一環として触れられると考えている。

3 松くい虫対策について

(問) ①今年是被害木が多く目立っているが原因・要因は。

②当郷から村松、入田沢南側に多く730㎡の伐倒駆除の契約がなされたが進捗状況はどうか。

建設農林課長答弁

①本年は4月に高温が続き、以降も気温が高い日が続きマツノマダラカミキリの飛翔が活発で例年より多く発生したのではないかと推測される。

②総合契約により伐倒燻蒸処理の施業を行った。春駆除処分は9月からキノコの時期と重なりトラブルや誤解の解消のために8月下旬まで施業した。

(問) ③今後の見通しと対策はどうか。

村長答弁

青木村の森林面積は全地域の80%である。村の森林を守ることは国土を守ることである。森林の役割と効果は生物を守り、地域温暖化を防ぎ災害から地域を守ることにある。松林は青木村の代表的なアカマツが約1213haの面積を占めている。引き続き国や県、そして森林環境譲与税など財源確保を図り松くい虫対策をしっかりと実施していく。

有効活用が求められる公共施設

松本 淳英 議員



- 1、村内各施設の運用方針について
- 2、各自治会(各区)未加入者について

周辺の施設とあわせた有効活用を



1 村内施設について

(問) 新型コロナウイルスの感染症区分が変更され、人々の活動が従来の姿に戻りつつある一方、インフレや人手不足は深刻である。めまぐるしい変化のなかで、指定管理における施設運営者の経営状況をどう把握しているか。

総務企画課長答弁

事業報告書の作成及び提出が義務付けられており、管理業務の実施状況及び利用状況、料金収入の実績、管理に関わる経費の収支状況などが報告される。

(問) 指定管理により運営されている3つの温泉施設(有乳湯、小倉乃湯、くつろぎの湯)の入浴料について、村外利用者の値上げなどを含めた見直しは。

村長答弁

今すぐ値上げをするという環境にはないと考えているが、今後も地元の管理者の皆様の見解を尊重したい。

(問) 3つの温泉について、観光面での活用等を踏まえた今後の運営方針は。

村長答弁

3つの温泉とも村外より村内の利用者が多く、村内の方が対象の施設でなければ

ならないと考える。

(問) 青木村郷土美術館や信州昆虫資料館にて、一部の特別展で柔軟な入館料を設定できるように条例を修正し、展示内容の充実をはかることは。

教育長答弁

青木村郷土美術館について、今後相当高いレベルの特別展については、条例改正も視野に入れて検討していきたい。

商工観光移住課長答弁

信州昆虫資料館の入館料については、創設者である故小川原辰雄名誉館長の理念を尊重し、入館料の値上げは考えていない。

(問) 当村における施設命名権(ネーミングライツ)活用への取組は。

総務企画課長答弁

本村の施設においては、大規模な収容施設がなく、企業側にとつて大きな宣伝効果が望めないことで、これまであまり具体的に導入を検討していない。

しかし、最近は公衆トイレ等の小さな施設でも地元の企業が命名権を獲得しているような例もある。今後、村や企業双方にメリットがある際には、一定のルールの下

2 地区自治会への未加入者について

(問) 当村において地区自治体(各区)に加入していない村民の状況は。またそのような村民がいることで生じている問題点は。あわせて、今後地区自治会に属さない村民が増えてきた場合、村としての各区への支援は。

総務企画課長答弁

地区自治会への未加入者について、正確な数字は把握していない。

問題点としては、地域のルールの遵守、ゴミ出し、広報紙の配布、回覧、役場への要望事項、地域の安全や子どもの見守り、災害時の対応などにおいて心配される部分がある。

村としては、移住相談や村営住宅の入居時に丁寧に説明をし、区長につないでいる。通常の転入者へは、受付窓口で広報紙等の配布物の関係などから区長に連絡、相談するように話をしている。村営住宅や、定住応援、補助金等の交付の要件として、自治会や地域活動に積極的に参加するよう書面をお願いをしている。

保育園の人的保育環境は

塩澤 敏樹 議員



- 1、青木村の保育と中学校部活動地域移行について
- 2、防災減災について



手厚い職員配置となっている青木村保育園

1 青木村の保育と中学校部活動地域移行について

(問) 保育園での保育事故や虐待と疑われる事案は。

保育園長答弁

骨折、脱臼、ハチ刺されなど、事故が起きた際は、報告書を作成し職員間で共有し事故防止に努めている。虐待と疑われる事案は確認されていない。全職員で人権擁護のためのセルフチェックで自分の保育が適切かの振り返りと、子どもとのかかわりで気になる事例の話し合いを行っている。

(問) 保育園の職員配置基準は、保育士一人が対応する子ども

の数を定めている基準だが、村の基準は国の基準と比べてどのようなになっているのか。

保育園長答弁

村としての配置基準は、国の基準と比べると大変厚く職員の配置がなされている。さらに一時保育職員、支援担当など合わせてフリーの保育士が4月当初7名、他にインクルーシブ教育の中で支援を要する子どもさんには、加配や補助が付き、手厚い職員配置となっている。

保育園長答弁

年の一回は研修に参加でき

るよう年度の初めに研修の計画を立てている。他園との交流は大事なことを考えるので、他の自治体との合意をいただき実施したい。

(問) 中学校の部活動地域移行について文化部も含めて今の状況は。

教育長答弁

東御市教育委員会が中心になつて上小の委員会話し合いが行われている。上田市の動きに合わせた形で考えていきたい。吹奏楽部も地域移行を考えている。

(問) 地域と連携した部活や勝ち負けにこだわらない「ゆる部活」の開設は。

教育長答弁

地域の伝統芸能の練習に参加している子ども達もいる。今後部活動の地域化を進める場合、様々な選択ができるシステムの構築を図りたい。

2 防災減災について

(問) 災害時要支援者の個別避難計画作成の状況は。

防災危機管理監答弁

現在作成済み地区は一つ、今年を目安に作成中が二地区。作成には時間を要し、負担も大きい。関係団体と連携・協力して計画作成に努めていきたい。

(問) 福祉避難所への避難では、避難規模の大小にかかわらず指定されて避難所に直接避難できるよう、あらかじめ受け入れ対象者を特定する制度はできないか。

防災危機管理監答弁

福祉避難所として協定を結んでいる「ラポートあおき」と調整を行い、災害時の直接避難を促進し、要配慮者の支援の強化をしていきたい。

(問) 避難所設置研修や避難所運営確認などを毎年実施できないか。

防災危機管理監答弁

避難所運営マニュアルチェックリストを共有し訓練等で実効性を検証していくことは重要、地区役員さん役場職員ともに講習会を継続していきたい。う企画検討していきたい。

(問) ハザードマップを活用しての避難訓練の実施は。

村長答弁

ハザードマップができていますので、訓練、研修で確認、周知していきたい。関係者が集まって研修し、過去に学ぶことも大変大事。

災害の際、自助・共助の必要性を区長会にもお願いし、ともに汗をかいて安全安心な村づくりをしていきたい。

森林は命と生活を守るかけがえのないもの

平林 幸一 議員



1、林業振興計画の推進について



豊かな混合林を抱く夫神岳



1 林業振興計画の推進について

(問) 青木村森林整備計画の概要、進捗状況、課題について

建設農林課長答弁

当村の森林の特性は、林業生産活動が積極的実施されるべき唐松や杉、桧を中心とした人工林と赤松と広葉樹が混在する天然林の構成。人工林の傾向は10齢級以上が90%を占め、適期の間伐と共に、国や県で推奨の主伐・再造林を中心の施策と森林資源更新の必要がある。村内の令和4年度から過去5年間の実績は、私有と公有を合わせた森林造成事業が計約412ha、作業道の開設が計約5200mの実績。作業道が整備されていない事や大型機械による施策が困難等の課題がある。今後も補助金等を活用し、所有者の負担軽減等の取組を継続する。

建設農林課長答弁

(問) 本村の所有者別の森林面積、割合、不在村者保有の森林面積の割合、森林所有者の森林に対する意識の状況は。

国有林が968ha・21%、公有林が774ha・17%、私有林が2887ha・62%不在村者保有森林約343ha・7.4%。相続したが山林の場所が分からない、又高齢の為山林を手放したい等の問い合わせがあり、

山林への興味が希薄している傾向にある。

(問) 林業振興の施策とカーボンニュートラルやSDGs等の取組等の考えについて。

建設農林課長答弁

村では、千曲川上下流住民による共同植樹会を行い、流域治水対策の森林の役割や機能を学び、意識の醸成を図っている。上小地区ではにぎやかな森プロジェクト事業を取組み、脱炭素社会の実現や生物多様性の保全に寄与する持続的な森林を目指す。今後も様々な取組を進める。

(問) ウッドショックの現在の状況は。

建設農林課長答弁

令和3年から4年にかけて木材価格は高騰し高止まり傾向だが、令和5年からは、下落状況にある。今後、上昇基調の物価等の影響も考慮しながら、市場動向を注視する。

(問) 本村及び他の自治体の森林環境譲与税の活用状況は。

建設農林課長答弁

令和4年度森林環境譲与税は1013万円、100%を松くい虫対策や森林整備に活用した。上田市56%、東御市6%、長和町33%は基金に充てたが、上小では唯一青木村のみ、

当該年度の森林環境譲与税を基金に充てず、うまく活用している。

(問) 本村の先進技術の有効活用の推進について

建設農林課長答弁

村はドローンを保有、松くい虫の被害木の調査に活用。信州上小森林組合は、GNSS、GPS面積確認作業等活用し負担軽減を図っている。今後も先進技術の導入に向け新しい情報の収集に努める。

(問) 本村林業の持続可能に向けた対応について。

村長答弁

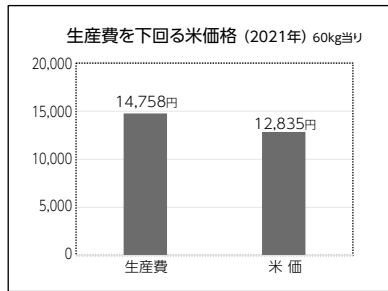
森林環境譲与税は大変貴重な財源。譲与税の計算基礎が私有林の人工林面積としているが全ての山林とするよう、町村会も、国に強く要望している。持続可能な森林活用とは、森林の成長量や蓄積を踏まえた伐採、森林の適切な更新と整備により再生産を進める事。この地域には森林組合がしっかりと根を下ろし、経営又経営の補助をして頂いている。森林の多面的な機能を保持して国土を守る為、山林を維持していく事は、青木村を守る事と同義語、青木村の山林4629haを後世に渡す為、村行政として必要な対応をして行く。

男女共同参画に向け意識改革を

坂井 弘 議員



- 1、青木村農業の方向性
- 2、ジェンダーフリーの社会づくりに向けた青木村の課題
- 3、文化遺産を活用した村づくり



米価は、2021年度の平均
農林水産省「農業経営統計」
「米穀の取引に関する報告」より

土地を守り人材を育て、希望ももてる農業に

1 農業人材バンク立ち上げを

(問) 農林業センサス2020年調査と前回2015年調査を比較すると、水稲の作付面積・収穫量の減少が目立つ。青木村農業の課題と今後の方向性は。

建設農林課長答弁

一番は担い手の不足、二つ目は荒廃農地の増加、3点目は野生鳥獣被害の増加であり、5年水張り問題が喫緊の課題だ。各々対策を講じている。

(問) 課題解決に向け、青木村の米のブランド化を図ること、学校給食に村を挙げて取り組むこと、担い手を育て確保する農業人材バンクを立ち上げることを提案する。

建設農林課長答弁

はぜ掛け米や有機農業に向けた取組みを継続しブランド化をどのように図るか関係者の知恵を借りたい。担い手を確保する組織・仕組みづくりの提案は非常に有益であり、検討したい。

(問) 自給率38%の我が国の現状に対する村の考えは。

村長答弁

自給率を上げることと村の農業の課題をどうするかということは同義語だと考えている。

る。米の付加価値を高めるための米粉の生産や汚泥の堆肥化についても研究している。

(問) 竹内製作所の緑地率は。商工観光移住課長答弁

6・1%と確認している。

2 パートナリシップ制度を村営住宅にも適用

(問) 残り一年となった第4次青木村男女共同参画計画の達成状況と課題は。

住民福祉課長答弁

区長の女性人数の目標を1名としているが0のままである。目標達成できなくも、次の計画の中で達成させたい。

(問) 達成を諦めたかのように聞こえる。上田市の女性自治会長経験者を招くなどして村民意識の改革に向けた具体的な取組みをすべきだ。小中学校の更衣室はどのように行われているか。

体育館にある男女別更衣室や、各学年の学習室を利用し男女別で行っている。

教育長答弁

(問) 8月から長野県パートナーシップ届出制度がスタートしたことに伴う村の対応は。

商工観光移住課長答弁

条例の読み込み範囲を拡大することにより村営住宅への

入居も可能とすることとした。

3 民話・義民・文化財を村づくりの中核に

(問) 文化財・文化遺産を保護・発信するための助成金は。教育長答弁

教育長答弁

伝統文化親子教室、地域の伝統行事のための伝承支援といった補助金がある。県の元気づくり支援金や村の村民活動支援金も該当する。

(問) 民話を村づくりの一つの中核にして発信していくことは考えられないか。民話の地や義民ゆかりの地を巡る青木村スタンプラリーなどを企画し、文化財を活かす取組みを検討してほしい。

教育長答弁

貴重な提案として伺っております。

(問) 義民ゆかりの地の案内板がなかったり老朽化したりしている場所が多々ある。一斉点検を行い保全・再整備をすべきではないか。また、冊子「青木村に見る義民の伝統」の増刷・改訂版発行の計画は。

教育長答弁

一斉点検・整備の考えはない。地区からの要請があれば対応する。冊子は700冊在庫がある。増刷する場合も改定も可能だ。

さらなる道の駅あおきの活性化を

金井とも子 議員



1、道の駅あおきについて



道の駅に付属した施設 漬物等加工所やみかえりの郷

1 (株)道の駅あおき」とともに歩む村の取組みは

(問) 平成28年4月1日(株)道の駅あおきが設立され、村から指定管理者の指定を受けて、道の駅あおきの施設等の運営はこの会社が当たっている。今年の5月の直売所運営組合総会と会社の株主総会において運営組合の出資については(株)道の駅あおきの自社株とすることが承認されたので、現在の(株)道の駅あおきの株主等の構成を伺う。

商工観光移住課長答弁

本年8月末現在、763株中、青木村250株、(株)道の駅あおき476株、JA10株、個人株主が27株となった。(問) 会社の社員数、販売実績は。

商工観光移住課長答弁

本年8月末現在累積44名を雇用。令和4年度決算では、売上は、青木農産物直売所2億6500万円余、味処こまゆみ6600万円余、戀渡屋1000万円余、いずれも前年度対比103・8%から120・5%の増。

(問) (株)道の駅あおきの株主として、今後の道の駅あおきへの関わりや村としての未来への展望は。

村長答弁

道の駅は、今や全国各地で市民権を得て、地域経済の誘引やにぎわいの創出の中心となっている。

道の駅は、農産物加工品販売、観光等青木村の中心地であり多機能な施設である。村も、関係皆様の協力や支援に対し一緒に汗を流したい。

未来への展望について、近接して竹内製作所様が創業を開始し、国道143号青木峠バイパスの開通も見えるところまで来た。道の駅あおきを取り巻く環境も、大きく動きだした。今後も青木村の活性化の中心地として高度化を図っていく。

(問) 200人を擁する直売所運営組合は株主ではなくなったが組合員からの要望等についてはどのようにされるか。

商工観光移住課長答弁

組合員の皆様には直売所の運営に御理解と御協力をいただき感謝している。組合員の皆様からの要望、意見については、各部会、役員会、取締役会を通して伺い、村としても財源確保の課題はあるが速やかに対応していく。

(問) (株)道の駅あおきの経営に

ついて今後販売額や集客を伸ばす戦略は。

商工観光移住課長答弁

スーパの少ない当村において、直売所は、買物弱者へのフォロー、対策といった要素も含めている。地域や消費者のニーズに添えていきたい。インターネットによる情報の発信に努める必要を認識している。

(問) みかえりの郷のコンパラは原材料不足がある。栽培の促進についてのお考えは。

建設農林課長答弁

安定的にコンパラの原材料確保のため、栽培や剪定の講習会開催の後押しや、苗木の補植のための村の補助金の交付などを通じ、加工所の取組を継続支援していきたい。

(問) ふるさと公園あおきの、防災機能の施設、設備は。また設備の確認、点検等は。

防災危機管理課長答弁

防災機能は、ヘリポート1か所、マンホールトイレ5基、かまどベンチ4基、パーゴラ3基、防火貯水槽1基、無線のWi-Fiを整備。消防団等に設備設置研修を行う。

遊具は、法定点検を行っている。他の設備も目視で点検等を行っている。

公共施設維持のため財源確保を

宮入 隆通 議員



1、ネーミングライツ導入について



施設維持には多額の費用がかかる



1 ネーミングライツ導入について

(問) 公共施設を維持していくために、どういったところにお金を使っていくのか。

村長答弁

常に施設維持のための財源のことを悩んでいる。そのための財政運営をしっかりとやらなければならない。今回、企業から多額の寄付をいただけたことは本当にありがたい。村内の公共施設の状態は良好であり、村民の方により多く使ってほしい。

(問) 青木村では施設維持のために、ネーミングライツ(命名権)導入の検討はしてこなかったが、今後導入する考えは。

総務企画課長答弁

様々なことにこの制度が使われていることを聞いているが、失敗事例などもある。今後の状況により、企業・村・地域の方にとってメリットがあるか、総合的に判断する中で慎重に検討していきたい。

(問) スポンサー側にとどの施設に名前を付けるか決めてもらう「提案型ネーミングライツ」というものがあるが、検討予定は。

総務企画課長答弁

具体的な提案があれば検討したい。

(問) 単なる企業の宣伝ではなく、村内企業や村に関係ある団体などが、社会貢献としてネーミングライツを導入してほしい。ネーミングライツ導入のための課題は。

総務企画課長答弁

条例や要綱を整理して取り組む必要がある。村内施設は小規模のため、投資効果を見出して応募する企業があるのか、また対象の施設をどうするか、契約金額の妥当性、何より住民・利用者に理解していただけるか、などが課題だ。

村長答弁

図書館に村内企業2社から毎年6万円ずつ寄付をいただいている。なかなか村では購入できない雑誌を購入しており、村民の要望に応えられてよかったと考えている。雑誌のカバーに企業名を掲示している。これも社会貢献のひとつとしてすでに行っていることも理解してほしい。

(問) 施設維持の財源確保としての将来的な考え方は。

村長答弁

文化施設、スポーツ施設などについて財源の確保の一般的な考え方は、

- ・ 利用料などの受益者負担
- ・ 民間委託
- ・ 施設等の長寿命化
- ・ 民間施設の活用
- ・ 発注や委託のロット拡大
- ・ 長期契約
- ・ 細やかな施設の点検
- ・ 担当職員の研修
- ・ 指定管理
- ・ 近隣市町村との一括発注などがあり、これらの工夫をしながら、限られた財源の有効利用を図っていきたい。
- ・ 利用料、使用料の額については、その施設が教育的なものか、福祉的なものかによって異なるが、そのような配慮も必要になってくる。
- ・ ネーミングライツやクラウドファンディングなどを参考・活用しながら、財源確保し、適切に施設の管理運営をしていきたい。

本会議討論

令和4年度青木村一般会計 決算の認定について

賛成討論

平林 幸一 議員

令和4年度青木村一般会計決算について、令和4年度決算は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国全体が未曾有の危機に見舞われ、先の見えない不透明な経済状態の中で、コロナ発生から経過3年目の行財政運営の決算であります。

青木村は昨年3月に第6次青木村長期振興計画を策定し、令和4年度はスタートの年となりました。総務建設産業委員会の審議について、歳入については、村税は4億2295万円、新型コロナウイルス禍からの持直しで、昨年比3.7%増、地方交付税は17億3715万円、1.5%減、国の債務残高が増加しており厳し

い状況にある事、コロナ禍からの経済復活とウイズコロナを見据え、今後も尚一層の減が予想されます。今後は過度に依存することなく、規律ある財政計画を図り施策を執行していく事が重要と考えます。

歳出について、総務費6億7212万円では、地方創生臨時交付金事業1億6620万円、選挙費1466万円等、農林水産費2億465万円では、当郷柿の水路改良工事3759万円、タチアカネ補助334万円等、土木費3億5169万円では、村道当郷国道北3号線及び6号線改良工事4040万円等、村の抱える課題に対して多岐にわたり、最善を尽くし適正に執行されてきた事を評価致します。

社会文教委員会の審議については、歳出について民生費7億5743万円では、住民福祉課関係で、新しく高齢者の保健事業と介護予防

の一体化事業、次期高齢者福祉計画に向けた日常生活圏域・高齢者ニーズ調査がされ、今後の高齢化社会に向けた対策に効果が期待できます。また、マイナンバーカード交付事務費、証明書コンビニ交付事業費は、住民サービス向上と窓口業務の軽減につながり、今後の飛躍的向上に期待します。

教育委員会関係では、保小・中での給食費無料化、コロナ禍における子育て世帯への支援が図られました。また、ICT支援員、スクールカウンセラーの配置、保育園の園舎増築、小学校の下水道設備工事、中学校では給食補助員、専科の職員の増強、また、ギガスクール構想の充実等、子どもたちの教育環境にも配慮した事業が執行されました。

また、文化会館の空調設備工事、総合体育館・照明のLED化等、公共施設の快適に使い易く、長寿命化が図られました。以上で、現在の地方財政下において、令和4年度青木村一般会計決算は継続的な対策と

新たな事業が取り組まれて将来に希望を与え、健全な財政運営がされて、評価する事ができました。

今後も地域や村民の要望に応える為、限りある財源の効果的な事業展開を望み、賛成討論と致します。



令和4年度も継続された給食費無償化

議

会

の

動き



長和町・青木村 議会議員研修会

7月4日(火)青木村にて、長和町・青木村議会議員研修が行われました。

今年は青木村での研修会で、文化会館にて「東急グループとの連携について」事業推進室の塩澤室長より、五島慶太翁の名誉村民について、また東急グループとの連携については、生家跡地建設の幹部研修所や連携推進により東急(株)より青木村に一名社員の派遣がされていることなどの説明がありました。



企業誘致した(株)竹内製作所についての説明

その後、五島慶太未来創造館の見学を行い、東急より派遣されている中山典秋さんより館内の説明をしていただきました。

最後に当郷地区岡石工業地整備事業について現地に、完成間近の株式会社竹内製作所の説明を、建設農林課の稲垣課長より土地交渉から建設までの経過など説明を受けました。その後長和町議員との交流会で意見交換をしました。(塩澤敏樹)

上田地域広域連合 議会行政視察

(1) 県外視察について

令和5年7月11日(火)・12日(水)上田地域広域連合議会合同視察が行われ、視察先は静岡県富士宮市の富士山世界遺産センター、静岡市葵区「どうする家康・静岡大河ドラマ館」と静岡県富士市の富士市新環境クリーンセンターにて行われました。富士山遺産センターでは平成25年にユネスコの世界文化遺産に登録された「富士山・信仰の対象と芸術の源」を後世に守り伝えていくための拠点施設で、富士山の自然、歴史、文化に関

する情報と展示をし、富士山の魅力について深く理解し、その価値と重要性を体験することができました。

富士市新環境クリーンセンターは、循環型社会、低炭素社会、自然と共生するまちづくりを実現するための中心施設として令和2年から運転を開始している施設です。施設面積は、7万4381・68㎡で工場棟、資源回収棟、循環啓発棟からなり、「安心で安全な環境にやさしい施設」として運転の自動化、燃焼温度の連続監視により適正な運転が行われています。

上田地域広域連合は重要課題として資源循環型施設を上田市清浄園用地約2haに建設用地として現在建設を進めており、5月に施設基本設計計画も発表されました。

(2) 管内視察について

令和5年7月26日(水)上田地域広域連合議会の管内行政視察が行われました。

視察先は、上田市常盤城の清浄園、上田市室賀の下室賀焼却灰最終処分場、上田市浦野の川西消防署を視察しました。清浄園は昭和34年に上田市し尿処理場として建設され幾多の沿革を経て現在の上田広域連合により運営されています。今後資源循

環型施設の建設進展に伴い南部下水道処理場に移転が決まっています。下室賀最終処理場は、平成8年から使用を開始してきましたが、不燃物残渣を平成25年から民間の一般廃棄物最終処分場に運搬して処理し、処分場の延命化を実施している状況です。川西消防署は、昭和47年竣工以来上田市西部地区と青木村全域を管轄しています。署の特徴として98%が救急出動です。築後35年を経過し大規模改修が予定されています。(松澤正登)



富士市新環境クリーンセンターにて

長野県町村議会 議員研修会

令和5年7月14日松本市で開催されました。この研修会は、町村議会議員の役割や地域社会の課題等についての研修を行い、もって議会の活性化を図り、住民福祉の向上に資することを目的として行われています。

今年度は、毎日新聞論説委員の人羅格氏の「議会議員のなり手不足と住民参加について」では、無投票当選の町村が多くなり、議会と有権者の結びつきを弱め、住民の議会への関心が低下。さらに「なり手」不足を加



町村議会議員研修会

速している。そして議会全体が定数削減のプレッシャーを受けやすくなるとの講演があり、また大正大学准教授の大沼みずほ氏の「子ども・子育て支援制度について」は、これからの少子化対策等の、国の大綱・支援策の概要について、また、長野県や県内市町村の令和4年度の少子化施策支援事業についての講演でありました。

この両講演は、当村にも今後の大きな課題であると認識いたしました。
(沓掛 計三)

主要地方道丸子信州 新線整備促進期成同 盟会総会

令和5年7月18日(火) 上田市川西公民館で地元県会議員をはじめ上田市、青木村の関係議員が出席して令和5年度総会が開催されました。

総会では、令和4年度事業報告、収支決算報告が行われ、引き続き令和5年度事業計画及び収支予算が提案され、いずれも原案どおり承認されました。この道路は、上田市鹿教湯温泉と青木村を結ぶ県道で改良促進状況や要望を県に行う同盟会で

年に1回総会を開催して上田市、青木村から県に要望を行っています。
(松澤 正登)

青木・麻績インター！ 新町間の県道整備促進 期成同盟会総会

7月27日(木) 青木・麻績インター・新町間の県道整備促進期成同盟会総会が麻績村地域交流センターにおいて開催されました。

同会長の塚原麻績村長による挨拶の後、来賓祝辞等につき議事に入り令和4年度の事業報告、収支決算と令和5年度事業計画・収支予算が審議されました。

本線は、青木村から筑北村を通り、麻績村村内で長野自動車道インターに連絡し、更に長野市信州新町で国道19号へと接続する県内を東西に結ぶ広域幹線道路であるとともに、地域住民の生活道路としても大変重要な道路です。さらに長野県地域防災計画において、第二次緊急輸送路として位置付けられていることから、災害時にも確実に通行機能が確保され住民生活を支えるという防災上の使命が課せられた道路です。県への要望に

ついて、青木村修那羅峠から筑北村、麻績村、長野市大岡、信州新町までの15か所の事業要望箇所の確認がされました。また役職の改選が行われ、北村政夫青木村長が会長に就任しました。尚8月28日には、期成同盟会代表者により県庁において新田建設部長へ要望書を提出しました。
(松澤 正登)

森林・林業・林産業活 性化促進議員連盟長 野県連絡会議 第28回令和5年度総 会・研修会

9月13日に塩尻市文化会館レザンホールにて開催されました。主な案件は、令和4年度活動経過報告、決算及び会計監査報告、令和5年度活動計画・予算案で各々原案どおり可決されました。その後、新型コロナ感染拡大のため書面議決となった全国連絡会議定時総会について、令和4年度事業・決算、令和5年度事業計画・予算についての報告がありました。総会終了後、研修会があり、「長野県森林づくり指針について」と題して長野県林務部の主任林業専

門技術員の今尾春彦氏より「長野県森林づくり指針の概要について」の講演がありました。続いて、宮崎大学農学部教授の藤掛一郎氏による「地方における持続可能な森林経営のあり方について」と題しての講演がありました。内容は、1需要と供給の協調拡大、2資源循環の確保、3事業体の役割と責任でありました。循環型で環境と両立する林業が行われるには、その土台として、所有者・事業体、加えて行政の三者共同関係をしっかりと構築することが今日不可欠。行政のコントロールも必要だが、まずは事業体・業界が見える形で社会的責任に取り組むことが大事であるとのことでした。
(居鶴 貞美)

議会行政視察

青木村議会では、9月26日から27日まで、埼玉県へ議会視察に出かけました。議員8名とともに、北村村長、課長を含む役場職員4名が参加しました。

最初に訪れた久喜市では、菊池課長説明のもと防災の取組みについて、宮内課長により企業



国道143号線整備促進の陳情



世界農業遺産 武蔵野の落ち葉堆肥農法

誘致について説明を受けました。同市には利根川が流れることから水害を強く意識した街づくりが行われており、スマホアプリを使った情報連絡システムなどの先進事例を紹介いただきました。また同市は青木村と災害時相互支援協定も結んでおります。企業誘致については、新たに造成する工業団地について、方法や助成金などの説明を受けました。

次に埼玉県立伊奈学園中学校では、飯田校長により同校の説明を受けました。同校は毎年新入生のオリエンテーションを当村で実施しております。埼玉県全体から選ばれた生徒が来るが、自然の中での農業体験を通じて、生徒がお互いを知り切磋琢磨しあう環境をつくることのできることでした。

9月27日は、国土交通省関東地方整備局を訪問し、藤巻局長へ国道143号線新バイパス早期開通のための陳情を行いました。藤巻局長からは、「長野県とも連携しながら要望に応えられるように頑張つてまいりたい。」と言う力強い回答をいただきました。

引き続き三芳町を訪問し、循環型農業と世界農業遺産について、三浦課長より説明を受けました。落ち葉を使った有機肥料を作る伝統ある農業形態について学びました。同町とは商工会同士で、災害相互協定が結ばれております。

最後に訪問した川島町では、空き家対策について小澤課長より、高齢者福祉政策について石川課長より説明がありました。全国空き家バンク制度や、オレンジカフェの設営、終活支援の導入など、同じ課題を抱える当村の参考となる施策について、意見を交わす場となりました。

今回の視察は、当村がかかえる問題について、先行事例として取り組んでいる自治体の状況を知る良い機会となりました。今後の議会における各種政策立案に役立ててまいります。

(松本 淳英)

青木村及び上田市共有財産組合議会

令和5年第2回青木村及び上田市共有財産組合議会定例会が9月28日青木村役場において開催されました。

提出案件は令和4年度決算と令和5年度補正予算の2件でした。

議案第1号令和4年度会計決

算の認定については、歳入総額3504万3691円、歳出総額3273万8685円、差引額230万5006円、執行率は97.3%でした。事業実績の主なものとして、主伐面積3.23ha事業費931万7千円、獣害防除ネット面積3.46ha事業費594万円、植栽面積3.93ha事業費328万5千円等が実施されました。さらに、井澤、坂井両監査委員により8月24日に実施された監査について諸帳簿等に誤りが無いことが報告され、議員から鳥獣被害についてなどの質問がありましたが、全員賛成で原案のとおり決定しました。

議案第2号令和5年度会計補正予算は、事業費等の4795万5千円の増額について全員賛成にて決定しました。

さらに、11月いっぱいまで退任される上田市常設委員の竹内秀二、横山勇徳両氏に対し長年に亘る功績をたたえ感謝状の授与が行われました。

(金井とも子)



住民の
声

ラッパ隊の熱い夏を終えて

青木村消防団 ラッパ長 菅原将仁

今まで仕事の傍ら消防団活動をする生活が当たり前で、生活リズムの一部でしたが、新型コロナにより丸3年も主立った活動が無いと、すっかりその環境に慣れてしまうもので、元通りの活動となる今年度、自分自身のスイッチON+隊員を奮い立たせるにはどうしたら良いものかと不安を感じながら、新年度のスタートを切りました。

いざ訓練が始まると私の勝手な不安は杞憂だったどころか、みんなの前のめり気味な姿勢に私のスイッチまで入れてもらいました。

協力員や再入団員として隊に残り盛り上げてくれている先輩方を中心に、みんなで隊内の絆を深めていく姿や互いを鼓舞し高め合う姿。数年振りにラッパ隊に帰ってきた私はコロナ渦前と変わらぬこの光景を懐かしく、嬉しく感じ、変に緊張らず今まで通りみんながフラットで意見の出し合えるこの雰囲気を実に大切にしようと思ひ、訓練に励んできました。

こうして迎えた上小大会では一緒に切磋琢磨してきた仲間への想い、応援してくれる家族への想い、この1回で終わる！という想い(笑) 様々な想いが驚異の集中力を生んだようで、会場の空気が変わるほどの気迫の籠もった指揮と演奏でした。

これまでの隊員の熱い姿を見てきた私は演奏の中盤から割としっかり男泣きしてしまいました。

上小大会では悲願の優勝、県大会でも9位と健闘し、全国有数の消防ラッパが活発な長野県で見事TOP10入りを果たすことができました。

大人が仕事以外でこんなにも真剣に向き合い、熱くなり、涙を流せる。良い経験ができる貴重な場であり、やりがいのある楽しい活動だなと改めて感じました。

小さな村の小さな消防団ですが、私たちの活動は消防団のPRだけでなく、魅力ある消防団づくり、さらには青木村の活性化にも大きく寄与するものと確信しております。

団員減少が進み苦しい中ですが、諸先輩方が土台を築き、隊員みんなで作り上げたこの雰囲気を大切に、小林団長の掲げる「楽しい消防団活動」を心掛け、今後も様々な場所で披露させていただければと思います。子供たちが「かっこいい！ やってみたい！」と思ってくれ、村内外の皆様の心に響き感動を与えられ、欲を言えばそこから団員確保に繋がればとてもうれしく思います。

編集後記

今年は、道の駅あおきに毎年たくさん並ぶ「松茸」がわずかしかが見ることができません。(10月4日現在)

不作の年もあることは頭の隅にありましたが、現実となると売上げに影響のある出荷者としては落ち込みます。

しかし、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、いろいろな行事がコロナ前のように開催されるようになりました。そばの花・実まつりは、以前のように蕎麦の振舞いが復活し、保育園や小学校の運動会、中学校のこまゆみ祭は来場者の制限がなくなり活気が戻りました。

これから予定されている産業祭も賑やかに開催されることと思われ楽しみです。

(株)竹内製作所様や五島慶太翁関連施設も青木村を盛り上げてくださることでしょう。

10月からのインボイス制度は、難解ですが、適格請求書発行事業者番号の報告をできないものとしては(株)道の駅あおき様にありがたくお願いしています。直売所を盛り上げる意味でも、これから、もしかしたら松茸が持ち直して直売所に並ぶかもしれません。落ち込んでいないでエールを送ります。(K・T)

信州・青木村
ふるさと景観100選

保福寺峠への道



青木村議会日誌

8月

- 2日 / 慶太塾竣工式(議長)
- 18日～23日 / 決算審査(監査委員)
- 24日 / 全員協議会
- 24日 / 農業技術者連絡協議会総会(正副議長、総務建設産業委員)
- 24日 / 青木村及び上田市共有財産組合議会会計決算審査(共有財産組合議会監査委員)
- 25日 / 県町村監査委員協議会表彰式・研修会(監査委員)
- 28日 / 青木・麻績インター・新時間県道整備期成同盟会県要望(議長)
- 30日 / 議会運営委員会(議会運営委員)

9月

- 1日 / 決算審査報告(監査委員)
- 4日 / 保育園運動会(正副議長、社会文教委員)
- 5日 / 議会開会
- 5日 / 全員協議会
- 7日 / 議会一般質問
- 11日 / 総務建設産業委員会(総務建設産業委員)
- 12日 / 社会文教委員会(社会文教委員)
- 13日 / 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟令和5年度総会・研修会
- 15日 / 五島慶太翁名誉村民称号記並びに名誉村民章贈呈式(議長)
- 16日 / 小学校運動会(正副議長、社会文教委員)
- 19日 / 議会審議採決
- 19日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 22日 / 中学校こまゆみ祭(正副議長、社会文教委員)
- 23日 / 東御市巨峰の王国まつり(議長)
- 24日 / 総合防災訓練
- 25日 / 県町村議会議長会全体研修・部会(議長)
- 26日～27日 / 行政視察
- 28日 / 例月監査(監査委員)
- 28日 / 青木村及び上田市共有財産組合議会(共有財産組合議会議員)
- 30日 / 保育園おやこ運動会(正副議長、社会文教委員)

10月

- 1日 / 子檀嶺神社秋季例大祭(議長)
- 2日 / 上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 6日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 13日 / 丸子信州新線県要望(議長)
- 17日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 23日 / 県町村議会議長会第37回定期総会(議長)
- 25日 / 上田地域広域連合議会(正副議長)
- 26日 / 全員協議会
- 26日 / 筑北村議会との研修会
- 27日 / 上田地域広域連合議会(正副議長)
- 27日 / 例月監査(監査委員)
- 28日～30日 / 青木村及び上田市共有財産組合視察研修(共有財産組合議会議員)

11月

今後の予定

- 10日 / タチアカネ新そば奉納祭(議長)
- 15日 / 静岡県長泉町議会会派視察来村(議長)
- 29日 / 町村議会議長全国大会(議長)
- 30日 / 石川県能登地区町議会連絡会視察来村(議長)